

## 全体のまちづくり構想に向けて現地調査

### 喜多方プロジェクト、5月も2度にわたり遠征

2001年に始まった喜多方プロジェクトも今年で5年目を迎えた。昨年度はまちづくり寄合所の開設や東北まちづくり学会<sup>まなびあい</sup>の開催などの成果をあげた。今年はさらに一步踏み込んで、最も大きな課題とされてきたふれあい通商店街のアーケード問題を中心に、喜多方全体のプラン作りに挑んでいる。〈黒瀬武史M2〉

喜多方チームは、5月もゴールデンウィークと20日-22日の2回にわたって、中心市街地の駐車場調査や水路調査、来年1月合併予定の周辺市町村の調査を行い、喜多方全体のプラン提案に向けて活動した。



撤去を検討中のふれあい通アーケード



二代目まちづくり寄合所

- ・二代目まちづくり寄合所オープン（小原酒造の蔵から向かいの大森家の店蔵に移動。1階は喜多方市高齢者活動支援センターの作品が、高齢者自身によって展示・販売されている。初代は和風のカフェとして、オープン予定。昨年度の建築学会設計競技で発表した「マチコロ」の提案が実践されつつある。）
- ・喜多方まちづくり会議連絡会開催（まちなかのステイクホルダーと県・市・商工会議所が、一つの場で喜多方のまちなかのあり方を話し合う場作りに向けて活動している。喜多方まちづくり構想も策定段階から地元の方と意見交換している。）
- ・新メンバー加入（新M1の鈴木・柴田・早坂の3名が加入・韓国からの留学生のイルジも参加予定）。
- ・喜多方分室覚書（昨年度から<http://kitakata.seesaa.net/>にて喜多方プロジェクトのブログを開設）。

## 第2回研究室会議（研究発表、マガジン、HP充実化など）と学部生新歓コンパ



新歓風景

第2回研究室会議は5月25日（水）に開かれ、M2の研究発表、M1の研究室での係りに関する報告のあと、西村教授発議により『都市デザイン研マガジン』が議題となり、担当の酒井研究生から「タイトルは西村教授の命名」との発言に次いで、創刊の意義と経過、とくに定例編集会議も開いている旨の報告と今後の計画などが述べられ、次いで研究室ホームページの充実化が議題となった。

会議後、学部生新歓コンパに移った。20人が参加して本郷三丁目のチムニーで開かれ、タイ留学生を含む学

部生数人と院生ひとりが個性的なあいさつをし、爆笑と拍手がやまなかった。西村教授、北沢助教授が歓迎スピーチを行った。

★『都市保全計画』受賞 西村幸夫『都市保全計画』（東京大学出版会）は2005年度日本都市計画学会論文賞を受けました。

本  
だ  
な



西村幸夫編著『都市美—都市景観施策の源流とその展開』（学芸出版社、5月30日）  
都市美研究の拠点東大都市工学・都市デザイン研究室ならではの現役・先輩執筆陣が  
目立つ待望の著。都市美理念の歴史を振り返り、景観規制の根本を考える内外の事例を踏  
まえた実践的理論書である。 Quest for City Beautiful

西村幸夫「序説 都市美の思想史」「都市美創出の道筋をたどる」／宮脇勝千葉大学助教授「イタリアの都市美ルネサンス」／鳥  
海基樹首都大学東京専任講師「フランスの「都市の美化」」「フランスの都市美保全策」／博士課程田中暁子ブリュッセル留学中  
「ベルギーの都市美運動」／同阿部大輔スペイン留学中「スペインの都市美思潮とバルセロナでの展開」／秋本福雄九州大学大学  
院教授「アメリカのシティ・ビューティフル運動」／出口敦九州大学大学院助教授「アメリカのニューアーバンイズムが創造する都  
市美理念」／中島直人助手「日本の都市美運動」（東大都市工学関係執筆、掲載順）2800円＋税。（研究室20%off.）

★ 北沢先生絵本『横浜・330年』復刊  
北沢助教授の俯瞰絵本が4月復刊されました。  
北沢猛文・内山正絵『ある都市のれきし—横浜・330年—』（福音館、86年初版）で4刷です。小学中級から。



1656年「小さな村から始まった」という砂州  
の横浜村から1892年「港町から近代都市へ」、  
関東大震災、横浜大空襲を経て1986年へ。いわ  
ば定点観測的手法の絵本です。1300円＋税。

## サークルフラッシュ

- 部活本格始動 野原助手主宰の部活は、第2回会合（5月27日）に12名が集まる大盛況となった。初のテーマは「アーケード」。日本のアーケード史、世界のアーケード事例、東京の現存アーケード調査などについて部員の発表があり、3時間半に及ぶ活発な意見交換が行われた。日本／世界／東京の3部会に分かれて調査を継続する方針。次回部活は6月8日17時から。
- 読書会スタート～寝ぼけざましにいかが？ 読書会「書を捨てるな、街へも出るけれど」第1回（5月26日）に、有志3名が尖鋭的に集結、アンリ・ルフェーブル『都市革命』（1970）の精読を戦闘的に開始した。今後は毎木曜早朝8時～開催。『都市革命』は3回完結予定、次なる題材は未定。希望受付中です。
- デザイン研・相撲部結成 5月25日の新歓コンパの席で、「栃東が勝つと花火が上がるまち」福島県相馬市出身・西村裕屋の岡村D2と高校時代「相撲愛好会」所属の坂内M1が意気投合して、たちまち相撲防ができた。9月場所開催など予定。「相撲取りがいるまち、安心なまち」両国のまちづくり、相撲屋敷活性化などの研究も視野に入っている。どすこい。

## ◆4年生インタビュー◆<第1回>山田くん

「長野のエム・ウェイブ脇で生まれ育ちました。親父は建設事務所の所長、おふくろは元スピード・スケート選手。伯母2人はオリンピック出てます。俺？ああ、インターハイは出ましたよ、一応。一万メート

ル専門で。「ストップ・ウォッチが友達」って感じの、ストイックな高校時代でしたね。国家公務員試験ダメなら、院に進学するつもりです。そのときはどうかよろしく。将来的には長野に戻って親父の跡を継ぐことになるのかな…」



大櫓とお地蔵と農家 私の住む団地から最寄駅への道中には、大櫓とお地蔵さんを従えた農家があります。向かいの畑では、野菜が物凄い勢いで育ち美味しそうな実を付けますが、農家のおばさん達が小さな市を開いて、実りを分けてくれます。この道をダンナサンと最後に朝通ったのは、また屋敷林の上で鯉のぼりが泳いでいます頃でしょうか。（永井らみ00）

編集後記 今年度夏学期も授業、研究、遠征プロジェクト、サークル活動に熱気のある研究室です。昨年の超過密研究室と違って、ゆとりのあるブースとなり、マガジン発行、ホームページ充実へとイノベーション的雰囲気です。研究室の現役・先輩による共著が相次ぎ、メーリングでの案内や本誌での紹介がはずみです。研究室のプロジェクトは、今回の喜多方報告から随時トップを飾ります。先輩便利も風景描写が寄せられるまでになり、心なごみます。（酒井）

